2009. 6. 25

日朝国交正常化連絡会学習会

立教大学　石坂浩一

1）米朝関係の緊張

１．２０　ホワイトハウス、政策アジェンダ発表
北朝鮮の核プログラムを完全かつ検証可能な形で除去するため実質的なインセンティブと圧力に裏打ちされた強力な外交を行なう

２．３　連合ニュース、「テポドン発射」の動きがあると報道

２．３～７　ボスワース元駐韓大使ら米国要人が訪朝

２．１３　クリントン国務長官、アジア・ソサエティで講演
北朝鮮が核プログラムを放棄する用意があるならば、米国は関係正常化、経済支援、平和条約締結に取り組む

２．１７～１９　中国の武大偉外務次官、訪朝

２．１７～２２　クリントン長官、アジア歴訪

２．１９　ボスワース、北朝鮮政策特別代表任命と発表

２．２４　朝鮮宇宙空間技術委員会報道官談話、衛星発射準備を表明

３．３～　ボスワース代表、アジア歴訪

３．５　朝鮮人民軍総参謀部と祖国平和統一委員会、それぞれ声明発表

３．１２　朝鮮宇宙空間技術委員会、衛星発射予定を国際機関へ通報

３．１７　北朝鮮の金英逸（キム・ヨンイル）首相が訪中

３．１７　韓国メディア、米国人記者２名の北朝鮮における拘束を報道

４．５　北朝鮮、人工衛星発射を発表、関係国へ通報

４．１３　国連安保理議長声明で北朝鮮の発射を非難

４．１４　北朝鮮外務省声明
安保理糾弾、六者協議不参加、自前の軽水炉検討、核抑止力強化

４．１４　北朝鮮、米国と国際原子力機関の監視団退去を要求

４．１７　ロシアのラブロフ外相訪朝

４．２４　国連安保理の制裁委、北朝鮮３機関の資産凍結を正式決定

４．２５　北朝鮮外務省報道官、再処理開始を発表

４．２９　北朝鮮外務省声明
安保理謝罪要求、核実験と大陸間弾道ミサイル発射実験の自衛措置

５．４　北朝鮮外務省報道官、オバマ政権は気に入らない政権を圧殺する前政権と同じ、と非難

５．７～　ボスワース、再度アジア歴訪

５．２５　北朝鮮、第２回核実験

５．２６　韓国、ＰＳＩ参加発表

５．２７　朝鮮人民軍板門店代表部声明、停戦協定の拘束を受けない
祖国平和統一委員会声明、断固かつ無慈悲な報復

５．２９　北朝鮮外務省報道官談話、制裁論議非難、さらなる自衛措置

６．１～　スタインバーグ国務副長官アジア歴訪、ボスワース・リービー同行

６．２　『ワシントン・タイムズ』偽ドル紙幣、北朝鮮の呉克烈が主導と報道
６．４～８　米国人記者裁判、労働教化１２年の判決
６．６　オバマ大統領、「北朝鮮は挑発的で見返りは与えない」
６．７　クリントン国務長官、テロ支援国家再指定検討を表明
６．１１　南北、第２回開城実務協議
６．１１　ＦＯＸテレビなど、第３回核実験説報道
６．１２　北朝鮮を非難する追加制裁決議１８７４、採択
６．１３　北朝鮮外務省声明、プルトニウムの核兵器化、ウラン濃縮着手
６．１３　金英春国防副委員長訪中、病気治療？
６．１６　米韓首脳会談、米韓同盟未来ビジョン、「核の傘」確認明記
６．１８　米軍、北朝鮮船舶を追跡と報道
６．１９　南北、第３回開城実務協議
北の強硬姿勢→米の無視政策→中国のペース調整

２）北朝鮮の変化
２００８年秋以降、金正日国防委員長健康悪化説
セリグ・ハリソン～重要な決定は金正日、日常的決定は張成沢（チャン・ソンテク）部長、国家安保問題は国防委員会が決定
１．２３　王家瑞中国共産党対外連絡部長、金正日委員長と会談
２．１１　金英春国防委員会副委員長が人民武力部長、李英鎬（リヨンホ）大将が人民軍総参謀長に
３．８　最高人民会議第１２期代議員選挙
３．１９　金正日委員長のやつれた写真を朝鮮中央通信が配信
４．９　最高人民会議開会、憲法改正、国防委員会拡大（副委員長４名、委員８名）
４．２６　連合ニュース、金正雲（キム・ジョンウン）国防委員会配属と報道
５下旬　『民族２１』６月号、後継者は金正雲特集
６．１　韓国の国家情報院、国会議員へ電話で北朝鮮が海外高官にあてて後継者問題で電文を送ったと連絡
６．２　韓国統一部、国務省ウッド報道官、後継者文書を未確認と否定
６．１４　『毎日』金正雲が１９９６～２００１にベルンで生活
６．１６　『朝日』金正雲が６月１０日前後に訪中
６．１６／１８　秦剛報道官、金正雲訪中繰り返し否定
６．１８　『環球時報』後継決定情報を報道
６．２０　『毎日』夕刊、金正雲国防委員長代行に
日本で後継者報道暴走